

### 第3章 施設の状態等

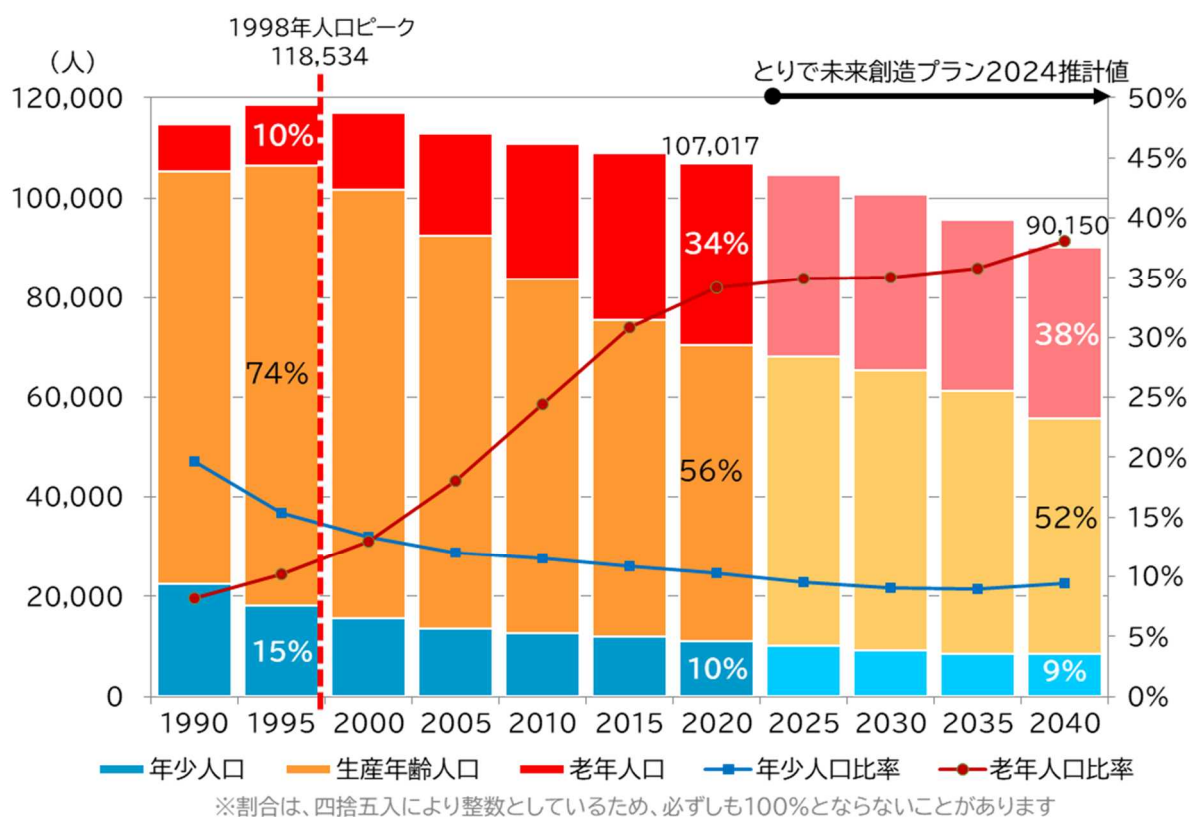
#### 3-1 文化施設の運営状況・活用実況等の実態

##### (1) 取手市の将来人口の推移

###### ① 市内総人口

市の総人口は、平成10年(1998)の11.8万人をピークに減少傾向にあり、令和22年(2040)には約4分の3に減少し、2.8人に1人が高齢人口(65歳以上)になると予想されています。

図表 3-1 人口状況



出典：第六次取手市総合計画 基本計画「とりで未来創造プラン 2024」

###### ② 人口減少推移による影響

人口減少により、施設利用者の減少が見込まれますが、特に市内在住者のみを対象とした施設ではないため、施設の運営に与える影響はほぼないものと推測されます。

## (2) 現在の利用状況

埋蔵文化財センターは、直近5年間(平成30年度(2018)から令和4年度(2022))の総来館者数16,360人のうち約95%にあたる15,534人が個人で、約56%にあたる9,166人が企画展開催期間中の来館者です。また、来館者の年齢層や居住地などに偏りはなく、幅広い方々に利用されています。収蔵資料は約131,500点です。民俗資料収蔵庫の収蔵資料は約2,100点、文化財倉庫の収蔵資料は解体古民家一棟分です。いずれの施設も、収容可能なほぼ最大容量が利用されています。

## (3) 利用状況の変化

運営開始当初から現在にかけて、利用者層や利用形態などに変化は見受けられません。収蔵点数は増加を続けています。



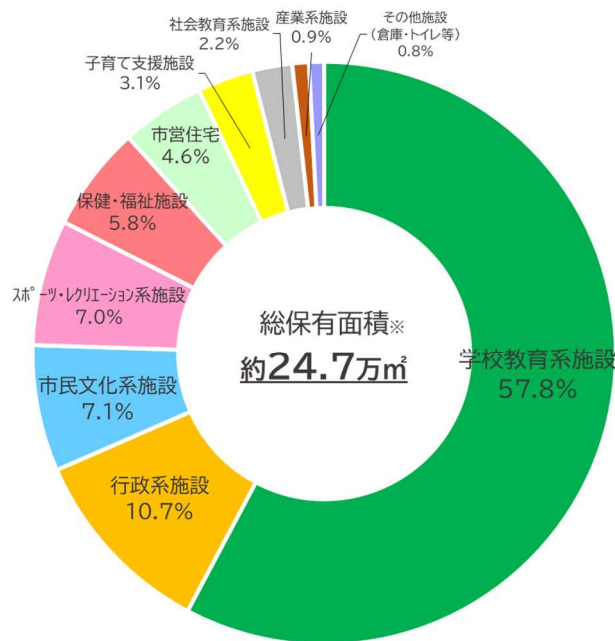
## (5) 文化施設の保有量

### ① 文化施設の現状

本市は平成 27 年(2015)時点で約 24.7万㎡ の公共施設を保有しています。

文化施設については、1,768 ㎡の公共施設を保有しています。

図表 3-3 類型別公共施設保有割合



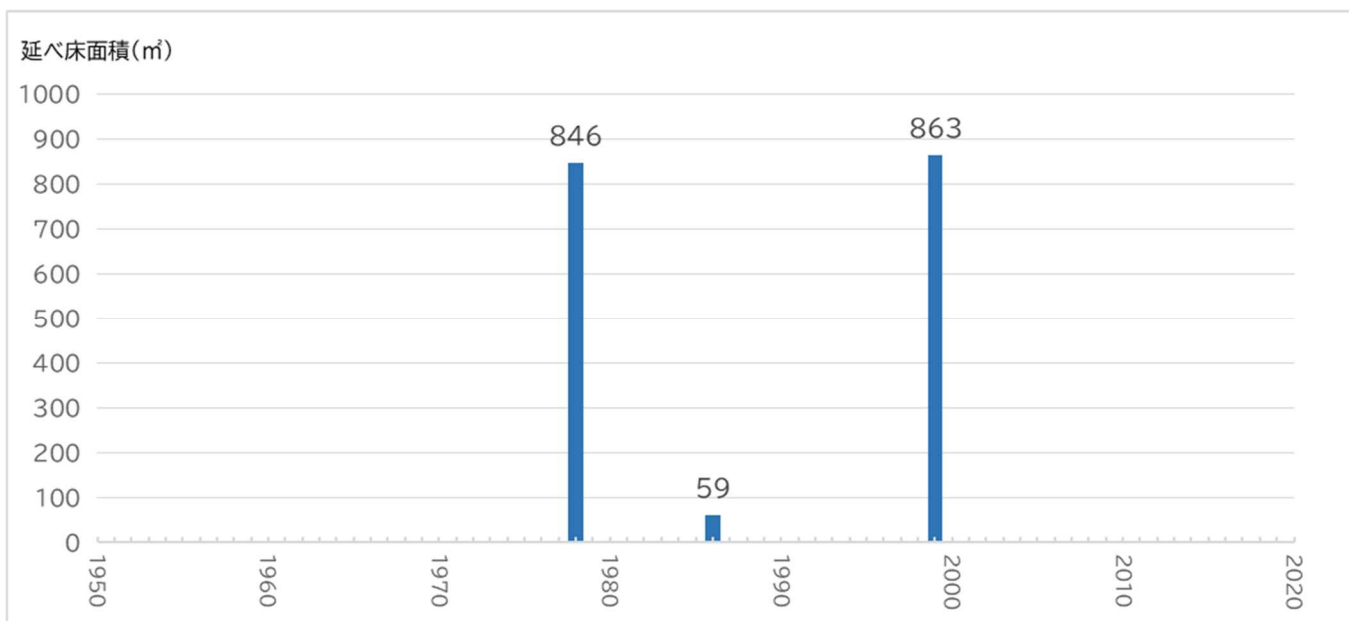
※総合管理計画策定(H27年)当時の保有面積

出典：取手市公共施設等総合管理計画

### ② 築年別整備状況

文化施設のうち、埋蔵文化財センターは平成 11 年(1999)建築で建築後 25年が経過しており、令和 2 年(2020)に外壁、屋根、空調設備等の改修工事を実施しています。民俗資料収蔵庫は昭和 53 年(1978)建築の学校給食センターの建物を転用したもので、建築後 46年が経過しています。文化財倉庫は昭和 61 年(1986)建築で建築後 38年が経過しています。民俗資料収蔵庫と文化財倉庫は、改修工事等は行われておらず、外壁や躯体を中心に劣化が著しい状態です。

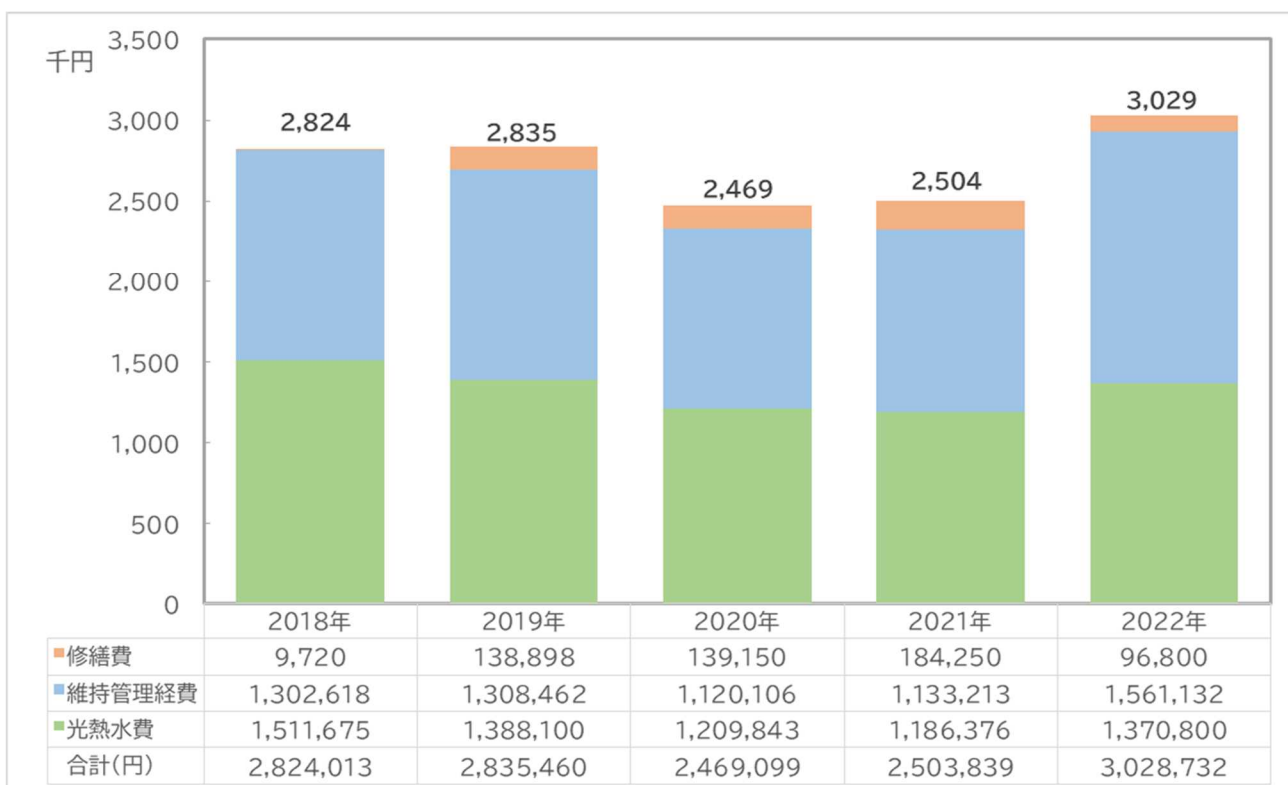
図表 3-4 文化施設の築年別整備状況



### (6) 施設関連経費の推移

文化施設の施設関連経費は、年間平均約270万円程度で推移しており、そのうち約130万円が施設の保守や維持にかかる経費で、残りの約140万円が光熱水費です。ただし、近年の原材料高・物価高などの影響から、施設関連経費は上昇傾向にあります。

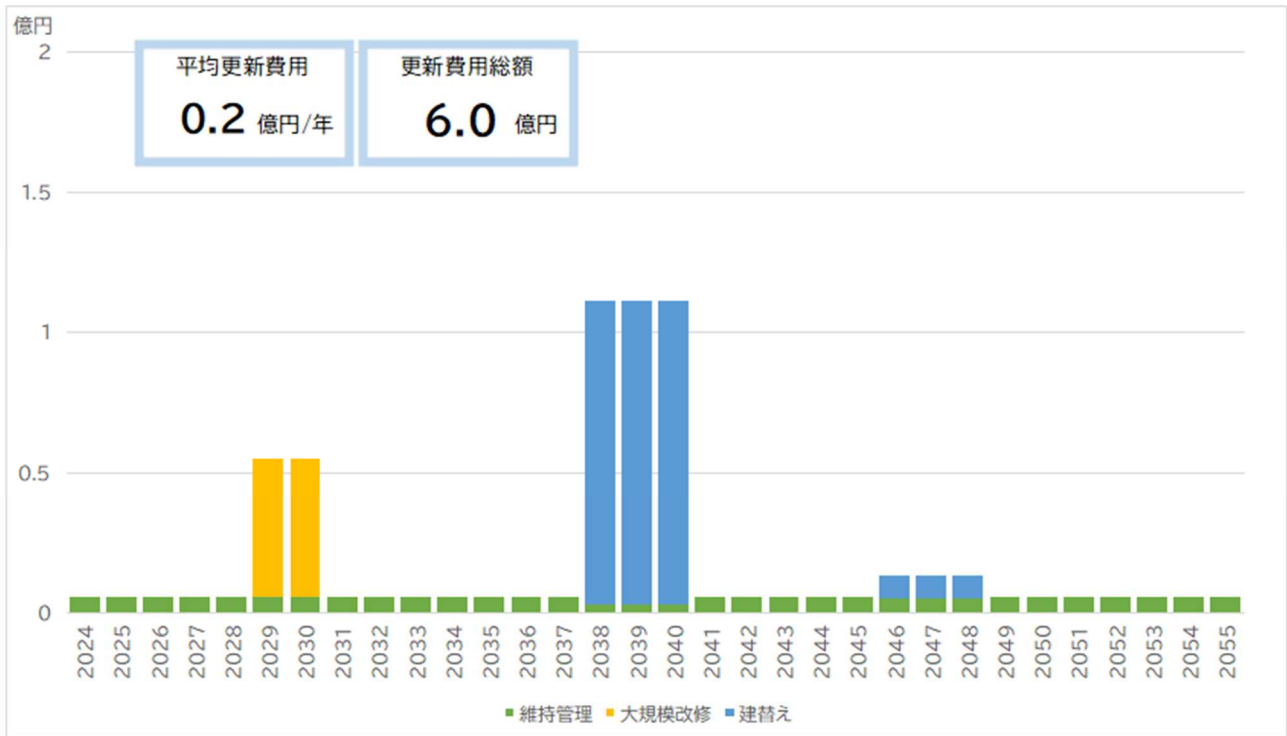
図表 3-5 文化施設の施設関連経費の推移



### (7) 今後の維持・更新コスト(従来型)

文化施設を従来通りに管理し更新する場合にかかる費用について試算を行ったところ、今後の維持管理・更新コストは以下のようになりました。

図表 3-6 文化施設の今後の維持管理更新コスト(従来型)



(8) 各施設の概要

施設名称 **埋蔵文化財センター**

所在地	取手市吉田383番地	地区	取手東地区
所管課	生涯学習課		
用途	教育センター		
配置形態	単独施設		
延床面積(施設全体)	863 m <sup>2</sup>	敷地面積	1,233 m <sup>2</sup>
棟数	1		
運営形態	直営	運営時間	8:30~17:15
定休日	休館日は土日祝日及び年末年始。ただし企画展開催期間中は原則月曜日		
避難所指定	特になし		



棟情報								
番号	棟名称	延床面積	耐震性	構造	建築年	築後年数	耐用年数	劣化状況
2003	埋蔵文化財センター	863	○	S造	1999	25	60	53.68

施設名称

# 民俗資料収蔵庫

所在地	取手市桐木1343番地	地区	藤代地区
所管課	生涯学習課		
用途	倉庫		
配置形態	複数棟施設		
延床面積(施設全体)	846 m <sup>2</sup>	敷地面積	2,101 m <sup>2</sup>
棟数	2		
運営形態	直営	運営時間	
定休日			
避難所指定	特になし		



棟情報								
番号	棟名称	延床面積	耐震性	構造	建築年	築後年数	耐用年数	劣化状況
2004	民俗資料収蔵庫	834	○	S造	1978	46	60	74.11
	民俗資料収蔵庫プロバン庫	12	○	S造	1978	46	60	70



施設名称 **文化財倉庫(寺原公民館敷地内)**

所在地	取手市本郷一丁目32番1号	地区	寺原地区
所管課	生涯学習課		
用途	倉庫		
配置形態	単独施設		
延床面積(施設全体)	59 m <sup>2</sup>	敷地面積	0 m <sup>2</sup>
棟数	1		
運営形態	直営	運営時間	
定休日			
避難所指定	特になし		



棟情報								
番号	棟名称	延床面積	耐震性	構造	建築年	築後年数	耐用年数	劣化状況
2009	文化財倉庫(寺原公民館敷地内)	59	○	W造	1986	38	40	56.84

## 3-2 文化施設の劣化状況の実態

文化施設の劣化状況につきましては、当市で導入している公共施設マネジメントシステム(以下「システム」という。)の総合劣化度を基準とします。

### (1) 総合劣化度

統一的な基準で、建物の劣化状況を把握するため、建物調査シート(巻末:参考資料)を用いて、建物ごとに調査を実施します。調査の結果はシステムに入力します。システムは、入力結果から各建物の部位ごとの劣化状況を a から d で判定し、各部位の調査結果、築年数や改修状況を加味した、総合劣化度を算出します。総合劣化度は、20 点から 100 点となり、点数が高いほど劣化が進行しています。

### (2) 文化施設の総合劣化度一覧

建物点検を行い、その情報をシステムに入力した結果、以下のとおりとなりました。

総合劣化度が最も高いのは、建築後45年が経過する民俗資料収蔵庫です。旧学校給食センターの建物をそのまま転用しており、改修工事等を行われていないことから、屋根や外壁といった外部仕上げや、基礎や地上部分の躯体、電気設備を中心に劣化が著しい状態です。

建築後37年が経過する文化財倉庫は、電気や空調、給排水設備が無いことから、総合劣化度は低めになっています。しかしながら、同様に改修工事等を行われておらず、基礎や地上部分の躯体、外部開口部などの外部仕上げを中心に劣化が見受けられます。

建築後24年が経過する埋蔵文化財センターは、外壁、屋根、空調設備等の改修工事を実施しているものの、それ以外の基礎部分のひび割れや、外構の地盤沈下、照明や換気設備の不具合などが総合劣化度に表れています。

図表 3-7 文化施設の総合劣化一覽

整理番号	施設名	整理番号	建物名	調査日	総合劣化度	築後年数	躯体		外部仕上げ			外構				電気設備				給排水衛生設備						空調換気設備		その他の設備	主要室						
							基礎・杭	地上	屋根・屋上	外壁	外部開口部	その他(建)	舗装	雨水排水	門及びフェンス	植栽	その他(外)	受変電設備	電灯・コンセント設備	通信設備	防災設備	その他(電)	給水設備	給湯設備	排水設備	衛生器具設備	ガス設備		消火設備	その他(衛)	空調設備	換気設備	昇降機設備	倉庫	便所(男子)
23	民俗資料収蔵庫	2004	民俗資料収蔵庫	2023/11/1	74.11	45	d	d	d	c	d	b	c	c	c	a	d	d	d		a											c	c	c	c
24	文化財保存倉庫(寺原公民館敷地内)	2009	文化財倉庫(寺原公民館敷地内)	2023/11/1	56.84	37	d	a	a	c	d		a																						
21	埋蔵文化財センター	2003	埋蔵文化財センター	2023/11/1	53.68	24	d	a	a	c	a	a	c	c	a	a	a	d	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	a	c	c				